



建築計画研究室

Architectural Planning Lab.

朽木 順綱

KUTSUKI, Yoshitsuna / Associate Professor

20XX — 上下分散型ターミナルによる高層ビルの在り方と人の動き方

Blueprint of Vertically-Layered Terminal Building and Flow of People in Future

都市——それは、何らかの原点に様々な物が集合することにより、拡大し続け、常に人々を魅了し、集合体の一部にしてしまう。そんな都市は、平面的な拡張だけでなく断面的な広がり方を見せており、100mを超えるビルが多数存在している。人々を集め、建物が次々と建設される中で2つの問題点が浮かび上がる。

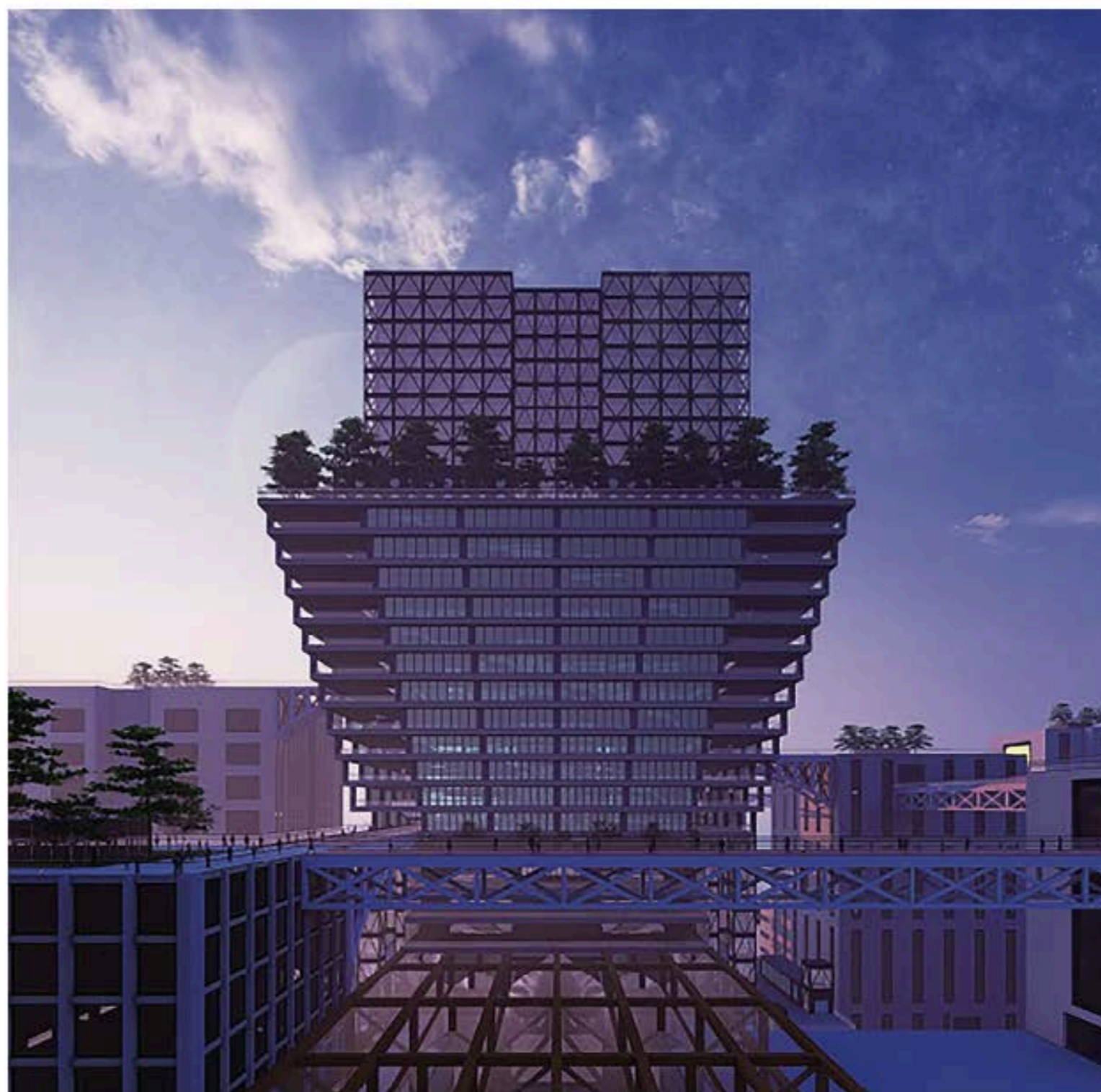
1つ目は、「ビルの単調性」である。平面的に見れば様々な要素が存在するように見えるが、断面的に見ると同一性の空間が縦に連続しているだけである。更なる都市の拡張には、1つの問題点といえるだろう。

2つ目は、「歩行者空間の在り方」である。交通が発達したことによりグランドレベルには様々なインフラが網羅され、歩行者空間が地下へと追いやられている。都市の動線をさらに円滑にする為には更なる解決策が必要である。

これらの問題点を解決するために、「分散型ターミナル」を設計した。

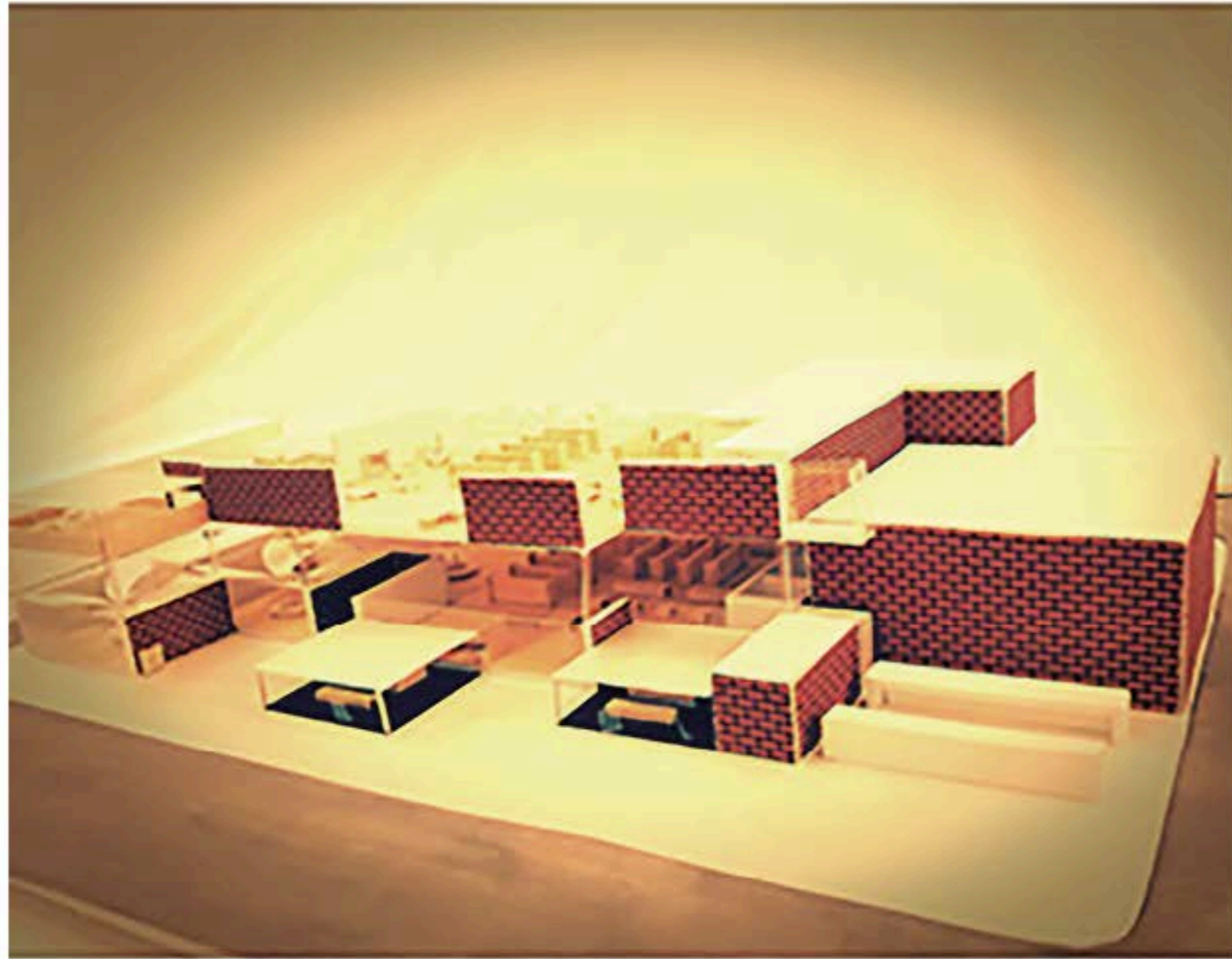


江藤 聖
ETO, Akira



日常の楽しみ —スーパーマーケットの設計

Proposal of Space for Enjoyable Daily Shopping



服を選ぶ、タピオカを飲みに行く…これらの「買い物」は楽しみながら行く一方、毎日の食材を買う、日用品を買う…スーパーマーケットでの「買い物」は楽しみながら行く方は少ないと感じます。

スーパーマーケットが、「今日の夕飯何にしようか。」と悩む場、会計待ちの長い列に並びストレスを感じる場になっていませんか。家事（仕事）の一部に感じている方も多いと思います。しかし、毎日行く方も多く、そこは日常の一部でもあります。

スーパーマーケットでの「買い物」という日常を少しでも楽しく、行きたいと思える新しいかたちのスーパーマーケットを提案しました。

小原 未由季

OHARA, Miyuki



明日をむかえにゆくために —身近なものからみえてくる生活の機微

Expressive Description of Life's Small Secrets Seen in Familiar Things

池のほとりに建つ小さな家

ここでの生活は

大きな出来事も大きな変化もない。

淡々と過ぎてゆく日々から

息継ぎをするように暮らしを見つめる。

生活を送るうえでの

ささやかな動きや変化に目を向ける。

見えなかったものが見え

何気ない生活に、小さな出来事や小さな変化があふれていることに気がつく。

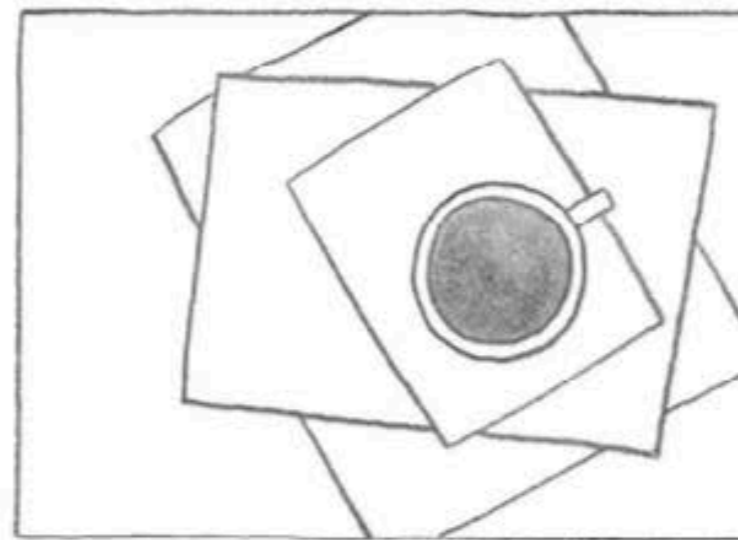
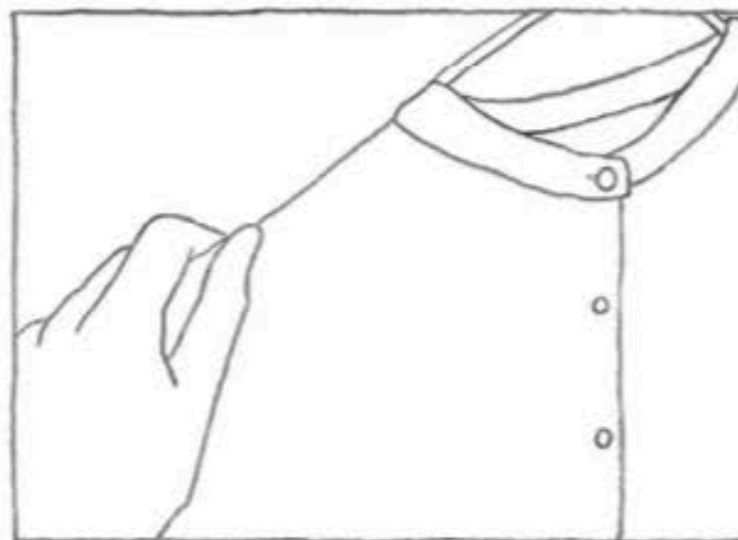
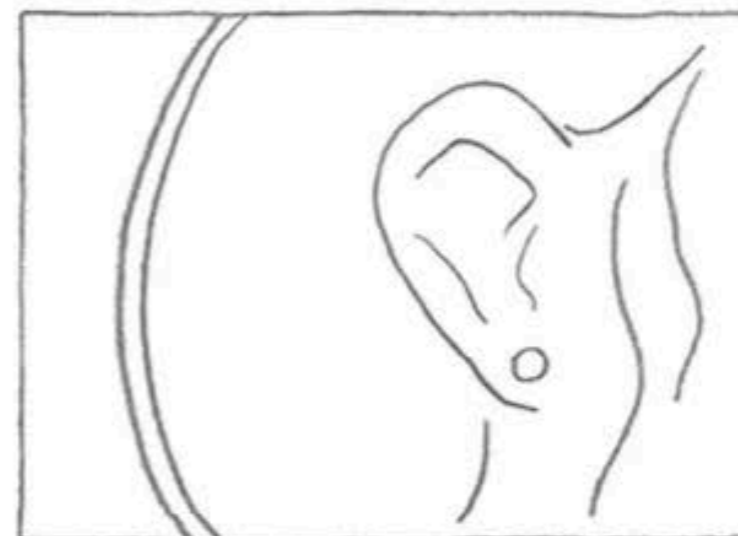
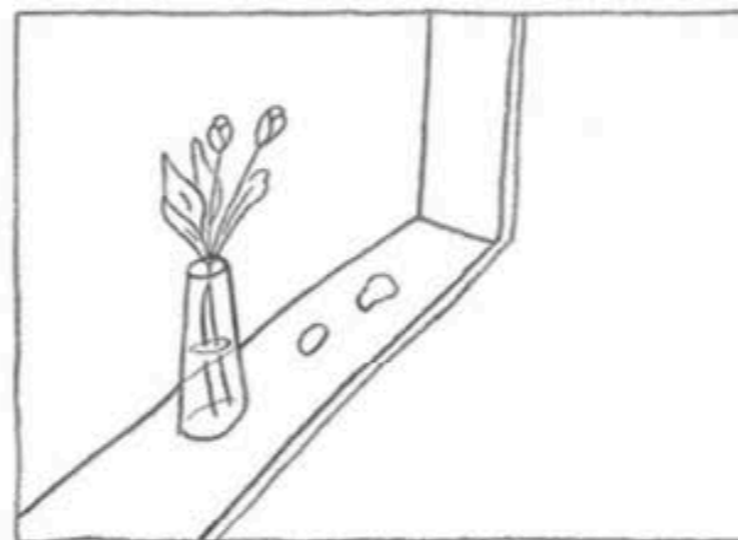
とりとめもないような事が愛おしく

それに気づいてしまうと

今まで通りではいられなくなる。

生活に潜む機微を

できるだけとりこぼさないように。



河西 遥香

KAWANISHI, Haruka

支え合って生きること。 — 山と人を繋ぐこれからの林業と村の暮らし

Proposal of Future Living with Forestry that Links Mountains and People in Shimokitayama Village



移住者に「村に来てもらう」という考え方自体間違っている。

村人が貢献して作られてきた村なのだから、新しく移住する側がむしろ謙虚に行かねばならない。

その考えのもとに必要なものは、移住したいと思っている人の受け皿と、村人と移住者が徐々に近くなってゆける環境である。

山々を通り抜ける強い風

川を流れる透明な水

暖炉の中でゆらゆらと揺れる生火

空を飛ぶ大きな鳥

地を這う小さな虫

下北山村で出会った、美しくも、気持ち悪くもある自然のいきものたちをイメージした空間はその場所の生活や仕事、未来を見せる。

里見 佳香

SATOMI, Yoshika



旅のその先

Designs of New Houses for Tourists and Local Children in MONGOL

旅行に行きたいと思ったとき

見たことない景色を
知らないことをさがしに
価値観をかえに

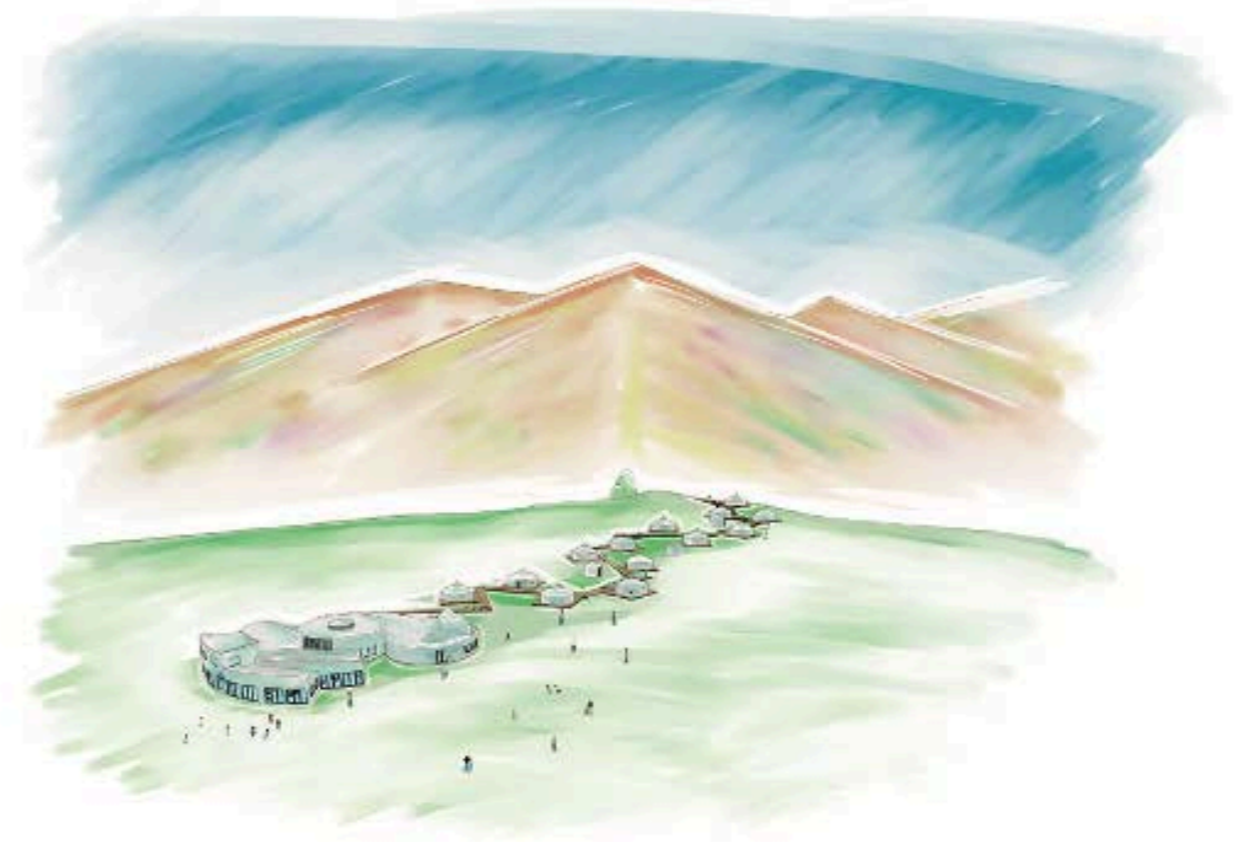
「モンゴル行こうと思ってるねんけど、いかへん？」
「いいけど、なんで？」
「行ったことないから」
「あー。行くか。」

行ってみたら、卒業制作にまでつながった。
モンゴルにぜひ行ってほしいと思った。と同時に
都市への人口過密、遊牧民の減少が
子どもの教育環境に影響している。
都市型の学びの場と宿泊施設
現地ならではの学びの場と宿泊施設を提案する。

理由はなんでもいい。
行きたいと思った瞬間が、1番たのしい。



城下 あかり
SHIROSHITA, Akari



chaki-2 — カチを身に纏う

Design Project of Hand-Made Accessories for Latent Originality and Slight Superiority of Yours



自分にしかわからないモノの価値。友達に勝ちたいという可愛いわがまま。そんな自分の“好き”に正直でいてほしい。そんな思いを込めてハンドメイドアクセサリーブランド【chaki-2 (チャキチャキ)】を立ち上げました。

茶屋町祭では物販とワークショップを開催し、自分でデザイン・作成すること、1から自分でカチを作り上げることを体験してもらいました。またリメイク活動を通して、依頼主が大切にしたいカチを長く使えるように手助けをしました。

さらに、ハンドメイド未経験者の為にスターターボックスを提案し、挑戦したい人の背中を押せるような活動を行いました。

Online Store: <https://chaki-2.stores.jp/>

多田 佳奈海

TADA, Kanami



まちの手 — 湊川公園の再整備計画

Renovation Project of Minatogawa Park for Children and Citizens to Learn, Play, and Grow in Neighborhood

神戸市兵庫区にある湊川公園は、昨年の8月にオープンした兵庫区役所の隣に位置し、休日にはイベントも行われ、地域住民のにぎわいの場となっている。この公園は南に下る斜面の上部に、東西方向の道路上をまたぐようにして整備されており、南北にある2つの商店街をつなぐ通り道としての役割も果たしている。新庁舎には、ホールや子育て広場が開設され、利用者の増加が見込まれるが、公園には子供の遊び場が少なく、広大な敷地を活用しきれていない。

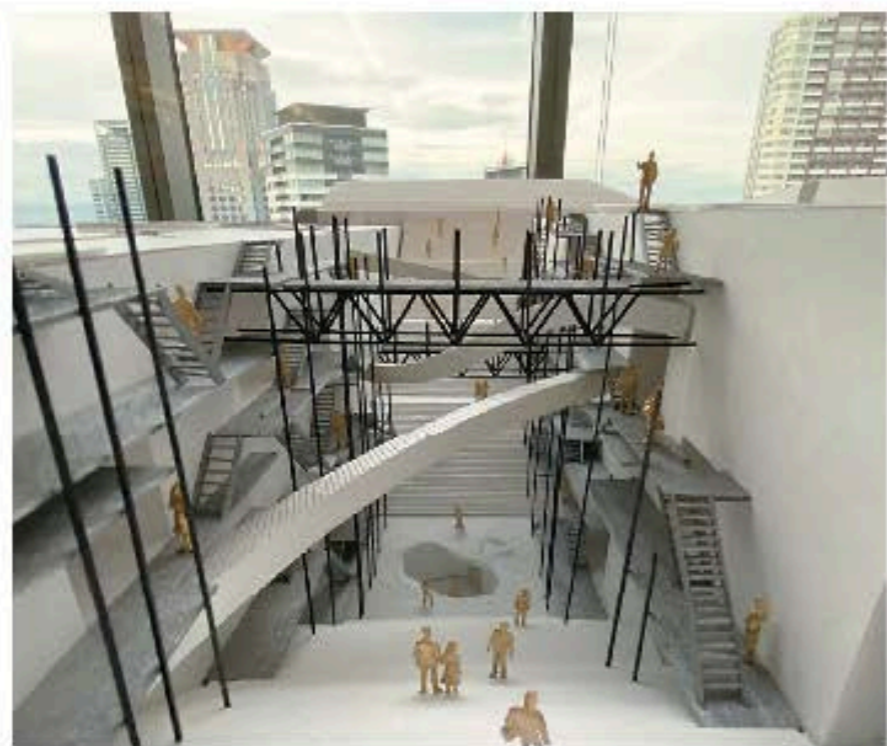
そこで、子供が学び、遊べる場所として、既存の要素も活用しながら、新たに8つの要素を配置する。また、歩道橋を作り、斜面上下のつながりを作る。



田中 理紗
TANAKA, Risa

刻 — 都市に掘られた宿泊施設

Design of Underground Accommodation and Urban Facilities

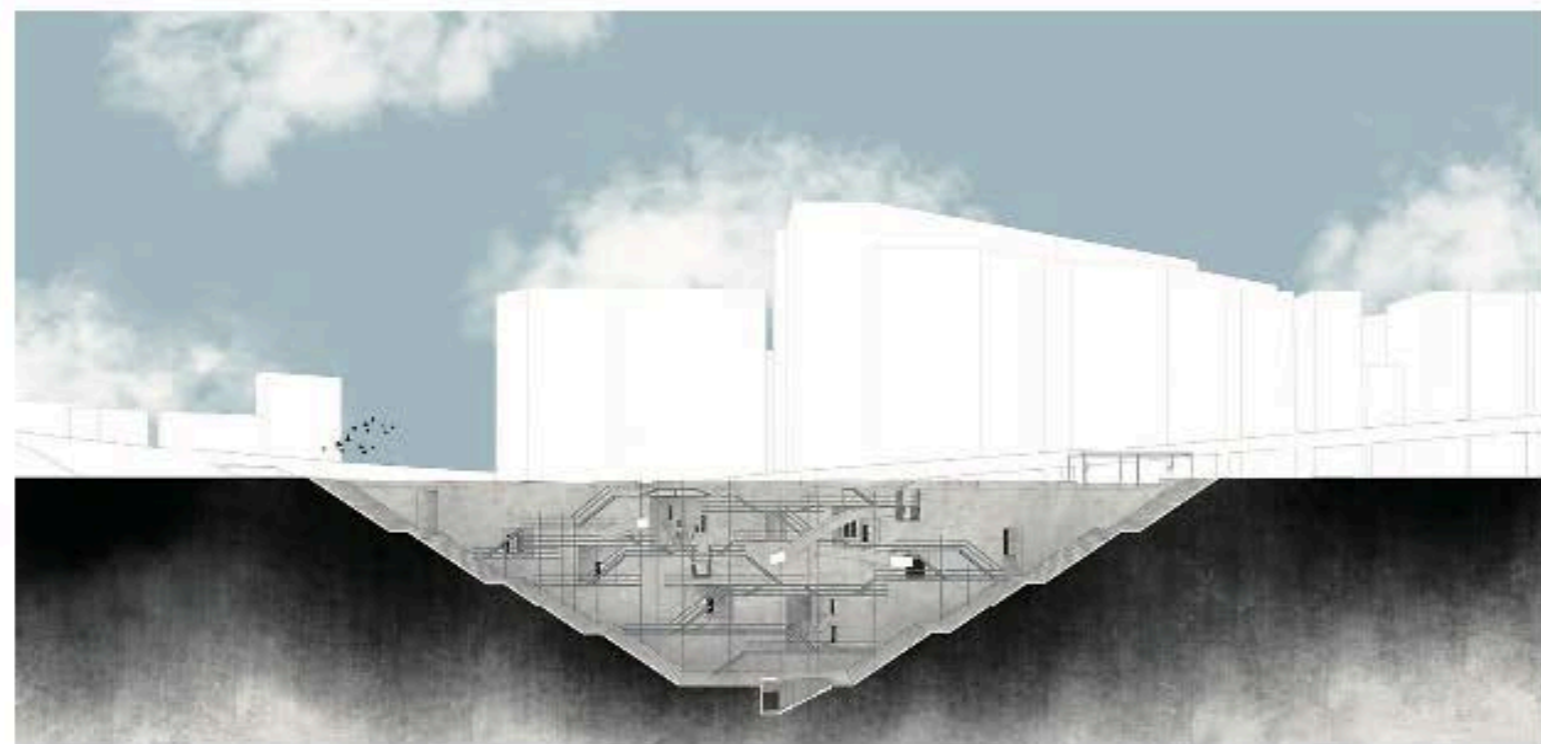


ここは地面に掘られた宿泊施設。壁や柱を建て空に向かうのではなく、地中に空間をしつらえたアリの巣のような場所である。

高所からの眺望が一般に普及しつつある今、地中にひっそりと佇み周囲を見上げられる場所を創ることができないかと考えた。

最深部の深さは20m、そこに寝食空間を挿入することにより、心身ともに深い場所となる。大きなスケールで計画されたこの場所は「個々の奇をてらった振る舞い」でなく「大衆による一般的な振る舞い」として地中への滞在を許容する。

街を俯瞰する鳥が地中世界に降り立った時、どのような情景を目にするのだろうか。



津熊 春樹

TSUKUMA, Haruki



もつひとつのしま ――せとうちに浮かぶ美術館

Design of Museum Ship which Floats on Sea for Inspirational Trips Connecting Setouchi Islands

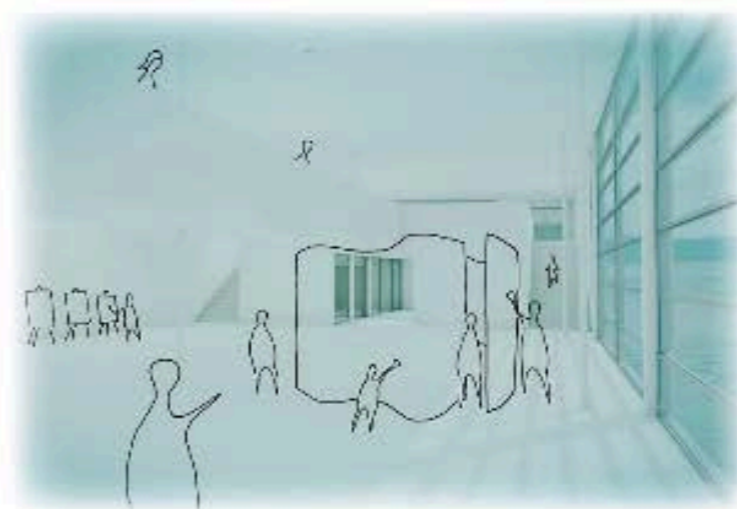
建築空間においてのみずは水盤などの意匠として使われることがある。みずは建築の敷地をこえた領域で季節や天気によって変わる空や周辺を写しだし、不変で動くことのない建築にさまざまな表情を与える。

この提案では、自然に広がる海をひとつの水盤と見立て、瀬戸内海を主題とする。海を建築の意匠としてだけでなく敷地としても考えると、ひとつながりに広がっていく無限定なものであるとともに、海面に浮かぶ地形や船や人々を包み、つなく。陸に囲まれた穏やかな内海は、それじたいがひとつの庭のような親密さを持ち、時ごとの満ち引きによって多彩な表情をもつ。

瀬戸内海のなかでも東側の、瀬戸内国際芸術祭が行われているエリアに焦点をあてる。芸術祭では展示や催しがそれぞれの島で行われているが、島同士をむすぶ関係性は薄い。そこでそれぞれの島をつなく芸術祭の起点となるような空間を提案する。この空間は瀬戸内に浮かぶもうひとつのしまとなる。

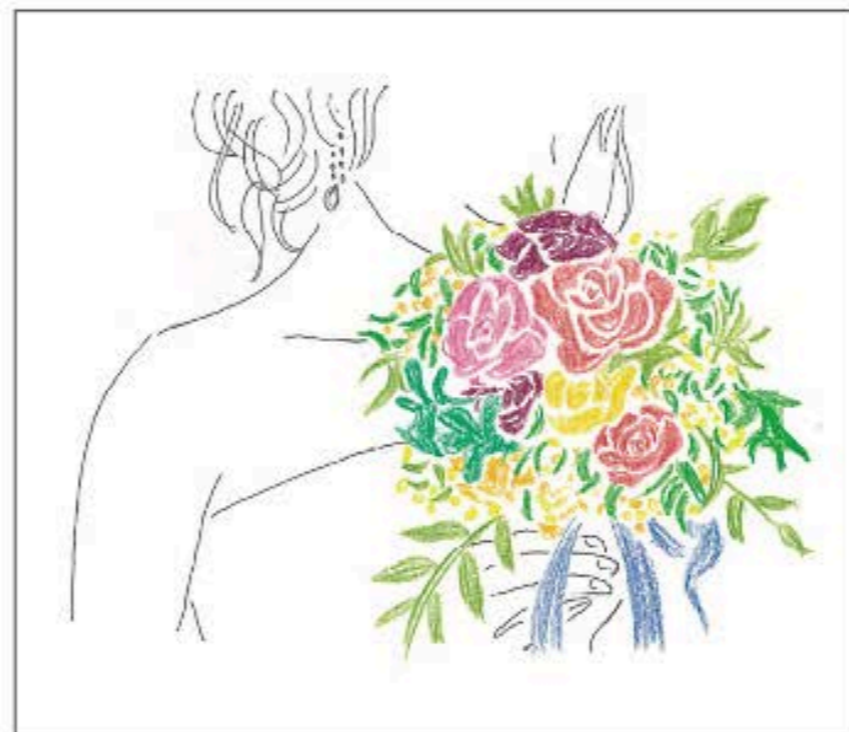
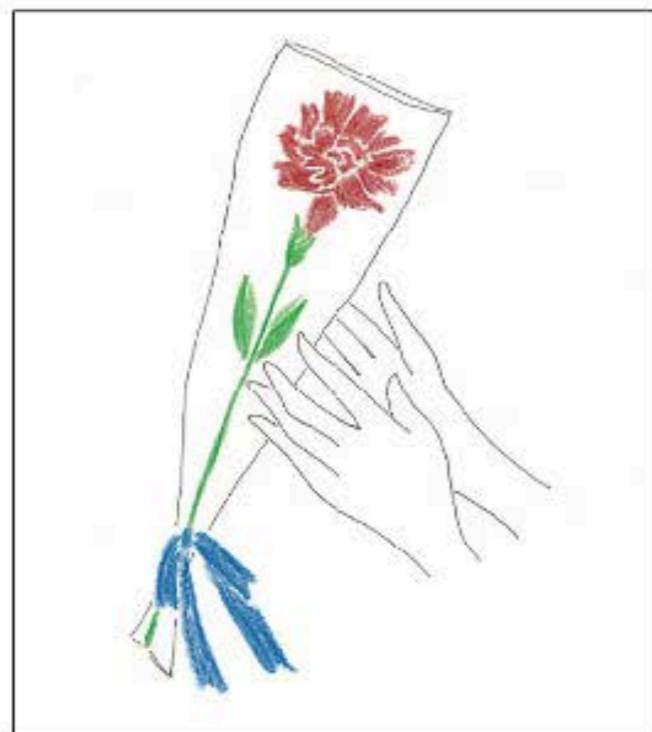


土屋 洸介
TSUCHIYA, Kosuke



花のある毎日

Proposal of Botanical Garden for Meeting with Flowers in our Daily Urban Life



現在の植物園は郊外に存在することが多いため親しみがなく、訪れる機会が少ないように感じます。

そこで、都市において日常的に花と出会うことができる新しい植物園の提案をします。

母の日に感謝の気持ちを込めて贈ったカーネーション
誕生日に大切な人にもらった花束
結婚式のブーケで投げたブーケ
緊張して通った入学式の日桜並木
花弁を一枚ずつ取って好きな人との相性を占った花占い
小学生の夏休みに一生懸命育てたアサガオ

花は沢山の大切な思い出と静かな感動を作り出してくれます。

素敵な忘れられない記憶をもっとたくさんの人に、日々の暮らしの中で思い出して欲しい。

そんな思いを込めて、花と出会うための空間を設計しました。

中野 優花

NAKANO, Yuka



場を纏う

Experiment for Transformation of Memories through Garment Designs Inspired by Places of my own Roots

あなたにはどれだけの大切と思える場があるだろうか。

大学入学に伴い地元を離れた自分にとって年に数回、親や友人達と会うのは年の楽しみの一つである。地元にはいつでも自分を受け入れてくれる場があり、自分を待っていてくれる人達がいる。地元とは暖かく、日々の疲れを癒してくれるそんな場である。

そんな地元には大人になった今でも大切にしている場が多くある。通学で毎日観ていた景色。友達と毎日のように遊んだ森林。自分以外の人にとっては何とも思わない場かもしれない。しかし、今の自分にとってはどれも掛け替えのない時間を過ごした特別な場である。

今回はそんな場から3つを取り上げ、場ごとの記憶、その場で感じたこと、場が魅せる表情など様々な観点をデザインソースとし、服を媒体として表現する。今、徐々に失われつつある場所性を服に取り込むことで場というものがいかに大切なものかを再認識する。



松葉 黎
MATSUBA, Rei

